



2020

本日のテーマ「昨年読んで面白かった本」

実施日：2021年1月24日（未開催）



1 「ドミノ in 上海」

恩田陸／著 2020年 KADOKAWA 【Nオ】

無関係に思える人物や出来事が、しだいに交差し、1ヶ所に集中していく様子は、タイトルのとおりドミノを見ていくような感じです。登場人物も多くて厚みのある本ですが、読み出したら止められず、あとという向に読んでしまいました。ヤサグレパンダの敬愛が良し！

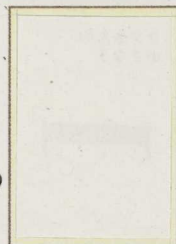


2 「リンさんの小さな子」

フィリップ・クローデル／著 高橋啓／訳

2005年 みすず書房 【953ク】

リンさんは、息子夫婦の赤ちゃんを連れて2人で異国の土地へ渡ります。言葉も通じない中で、年老いたリンさんの赤ちゃんを守る真摯な姿が胸を打たれます。表紙はリンさんが赤ちゃんとベンチに座っている姿です。



3 「流浪の月」

凧良ゆう／著 2019年 東京創元社 【Nナ】

夕飯に食べるアイスクリーム、オールドバカラのグラスでのむウイスキー、花屋で買った白いカーの花、映画「トルーローロマンス」。

ただただ読んでいく向は、見苦しく、危ないなを感じ、早く某に呼吸がしたい...という思いで、一気に読みました。



4 「たのしい路上園芸観察」

村田あやこ／著 2020年 グラフィック社 【627.8】

路上の園芸活動を中心とした街の緑の重なりを「路上園芸」と呼んで、観察・記録してきた著者。転職録本、と「草、緑の滝など」、おもしろいカラコッー分けて、たくさん写真が紹介されています。路上園芸に目を向けると、ちょっとしたお散歩も楽しくなりそうです。



5 「九州SL紀行 — 栗原隆司写真集」

栗原隆司／著 2000年 ないねん出版 【L536.1】

昨年SL列車が熊本～博多間を走ったことで

興味かわきました。あの力強さを思い出します。

当時のことを知っていたらより楽しめそうです。



6 「福岡の怖い話」

濱幸成／著 2016年 TOブックス 【388.1】

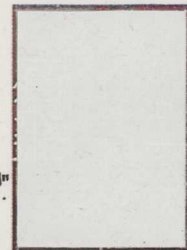
昨年は犬鳴峠を舞台にした映画が上映されましたね。福岡には、他にもあるんですよ。怖い話。



7 「首都感染」

高嶋哲夫／著 2010年 講談社 【N夕】

中国で致死率60%の強毒性新型インフルエンザが出現。恐怖のウイルスが世界に、そして日本に向かった。パンデミック阻止のため、総理は東京を封鎖する。2010年に発行された小説ですが、まるで今のコロナ禍を見るような実感が伴う小説。参考文献もすごいです。



8 「みをつくし料理帖シリーズ」(投稿箱のアンケートより)

高田郁／著 2009年～ 角川春樹事務所 【SN夕】

映画化もされていますが、NHKの黒木華さんのドラマが面白くて、原作を読みました。チャンクの誓いのような山谷の敷しい話ですが、読後感はとても良いのでぜひ。



9 「東京すみっこごはん 1～5」(前回参加者より)

成田名璃子／著 2005年～2020年 光文社 【SNナ】

共同台所で、自分たちでごはんを作る珍しい食堂。くじびきで、作る人を決め、レポートを見ながら作り、みんなで食べるルールです。年代や職業も様々な人が集まり、その人それぞれの話も丁寧に描かれていて、バカあたたまるシリーズです。



10 「キネマの神様」(前回参加者より)

原田マハ／著 2008年 文藝春秋 【Nハ】

映画の評論もあわせてあるのですが、親子の情愛や人と人のつながりなど、改めてほっとする+ほろりとする読みものでした。あまりたくさん読むほうではないのですが、この本から 総理の夫...? だったかな? 原田マハさんにハマっています。

